ち早く取り入れ、高校重量挙げをリードした。何人かが大学の特待生として招かれた。

全日制の生徒と励まし合う

団体競技より個人競技が強かったのは、生徒の仕事や始業時間、終業時間が違うので、集団で練習することが難しく、一人や二人でも練習できる競技に偏ったのかもしれない。

毎年交互に北と南から国道を走る全県高校駅伝には、応援団が中継点に出掛けて、全日制の選手も併せて激励した。

文系では、演劇部が市内通学生を中心に活発だった。文芸部も文集を出し続けた。

授業は、中には昼の仕事で疲れて眠る者もいたが、楽しかった。全日制の生徒とは、中間テストや期末テストの時など、机の中に、「頑張ろう」とか「上手くできたか」などのメモを入れて、お互いに励まし合った。

4年生の時、富士箱根伊豆国立公園へ修学旅行。前列中央が筆者（昭和32年）

「金萬」4個が代返の報酬に

当時、学校の近くに金座街という繁華街があって、「鎌田」という喫茶店の紅白の酒まんじゅうが大きいのが2個、小さいのが4個、それぞれ20円で、学生たちに人気があった。代返1回につき、これが一皿。やがて「金萬」ができて、一皿4個で20円。これも代返の報酬に加わった。

音楽の先生は小田島樹人という人だった。この先生が「おもちゃのマーチ」を作曲した人だと知ったのは、大人になってからだった。

授業風景

秋田高校定時制課程

昭和18年、いわゆる勤労青年の夜間の教育施設として県立秋田第二中学校が秋田中学校内に併設された。そして23年の新制高校誕生とともに、定時制課程および通信制課程として教育の機会均等が一層充実した。

39年に県立秋田東高校として独立するまで、等しく秋田高校を学び舎として勉学し、その多くは昼間勤労しながら学習に励んだ。その間、1千数百人に上る卒業生を輩出している。

秋田東高校は平成17年、秋田中央高校と秋田工業高校の定時制課程と統合し、秋田明徳館高校として発足、現在に至っている。

第12回全県駅伝競走大会で力走する秋田高定時制の選手（左）

第1回東北高校駅伝・男鹿駅伝で優勝した秋田高定時制（昭和34年）

ボクシング・フライ級で全日本高校チャンピオンとなった加藤選手（左）

※写真はいずれも秋田明徳館高校保管。

泌尿器科　内科　血液透析
医療法人 あけぼの会
花園病院
理事　副院長
寺邑 朋子（昭和56年卒）
TEL (0187)-63-3100
FAX (0187)-66-2450
〒014-0055 秋田県大仙市大曲あけぼの町9-26

人生100年時代
健康長寿をめざして
代表理事
百瀬　和
（昭和56年卒）
一般社団法人　国際医療福祉研究所
〒010-0001秋田市中通３丁目3-33

税理士法人
三浦相原事務所
会長　相原定幸（昭和41年卒）
所長　三浦秀明（昭和56年卒）
〒015-0874
秋田県由利本荘市給人町20－１
TEL0184-24-5255　FAX0184-24-2894

Wein Paradies
ドイツワインインポーター
ワインパラディース
鈴木金七商店株式会社
取締役会長
鈴木　鉅（昭和29年卒）
代表取締役社長
鈴木 裕一（昭和56年卒）
〒010-0341 男鹿市船越字寺後4-10
TEL.0185-35-3626　FAX.0185-35-3051
E-mail:info@weinparadies.jp
http://www.kinshichi.co.jp
http://www.weinparadies.jp（通販）